第５学年　音楽科学習指導案（略案）

令和２年１１月６日（金）
第４校時　　音楽室
第５学年１組　２４名

１　題材名　　「和音の移り変わりを感じ取ろう」
教材名　　「こげよ マイケル」

２　目標

○旋律、Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ及びV_7の和音の響き、調や音の重なりなどと曲想との関わりを理解して、和音の移り変わりに気を付けたり、互いの音を聴き合ったりして表現する技能を身に付ける。

○和音の響きやその移り変わり、呼びかけとこたえについて聴きとったことと感じ取ったこととの関わりを考えながら、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。

○友だちと協同して、和音の響きやその移り変わりを感じ取って表現する学習を通して、和音の響きへの興味・関心を深める。

３　題材の観点別評価規準

ア　知識・技能	イ　思考力・判断力・表現力等	ウ　主体的に学習に取り組む態度
① 和音の響きやその移り変わりを感じ取りながら、旋律や伴奏の音を聴いて表現する技能を身に付けて演奏している。	① 曲想や音色や音の重なり、和音の響きの違い、呼びかけとこたえとの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	① 曲の構成や、曲想に興味をもち、音楽を感じ取る学習に主体的に取り組もうしている。 ② ハ長調の和音の響きやその移り変わりに興味・関心をもち、それらの美しさを感じ取りながら、演奏する学習に主体的に取り組もうしている。

４　指導計画　（全３時間扱い）

	ねらい	○主な学習活動　◆研究との関わり
1	伴奏の響きを感じながら、曲全体の感じをつかみ、曲の構成を理解する。	○指導用 CD の範唱を聴き、斉唱と合唱が交互になっていることや、リズムの形が変化していることから、音楽を形づくっている要素《呼びかけとこたえ》であることに気づかせる。 ◆思考・判断のための素地の醸成【考え・判断できる】
2 （本時）	ハ長調の主要な和音の響きを感じ取りながら、ミュージックベルで《こたえ》の部分を演奏する。	○三つのパートの音の重なりが和音になっていることに気づき、既習内容である《Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・V_7》のそれぞれの響きであることを確かめる。 ○主旋律①と副旋律②③、それぞれの部分を階名読みして、音の並び方やリズムを確かめる。 ○ミュージックベルで演奏するため、各パートに必要な音の担当を決める。 ○三つの音の重なり（和音）の、それぞれの響きを確かめながら、ミュージックベルで演奏する。 ◆やり直しができる場の設定【自ら課題に取り組む】 ◆既習内容を生かした学習活動の設定【自ら課題に取り組む】
3	曲想を生かして、和音の響きやその移り変わりを感じながら演奏する。	○曲想を表現するために、打楽器による伴奏を工夫する。 ○ミュージックベルと打楽器による演奏を聴きあい、アドバイスシートに感想を記入し発表しあう。 ◆友達と関わりあう学習活動の設定【自ら課題に取り組む】 ◆相互評価できる場の設定【共感的・肯定的な人間関係の構築】 ◆個性が発揮できる場の設定【行動できる】

５　本時の学習指導（全３時間中の第２時）

（１） 目　標

ハ長調の主要な和音の響きを感じ取りながら、ミュージックベルで《こたえ》の部分を演奏する。

（２） 展　開

○主な学習活動　・予想される児童の反応	・指導・支援　＊資料　◇評価（観点・方法）
○指導用ＣＤの範唱を聴き、前時の学習を振り返る。 ・≪呼びかけとこたえ≫が使われている。 ・和音《Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・V_7》が使われている。	・キーボードで和音を重ねて、《Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・V_7》の響きを児童が感じ取れるようにする。
「こたえ」の部分の三つのパートをミュージックベルで演奏しよう	
○三つのパートの旋律を階名読みし、音の構成から和音の移り変わりを確かめる。 ・「ソ」の音はないけど、ここはⅠの和音になる。 ・「ソ」の音はないけど、「ファ」の音があるからV_7の和音だと思う	・経過音が入るので、児童の判断が難しいところもあるので、主要和音の構成音で考えることを伝える。 ＊ハ長調主要和音を提示する。
○各パートに必要な音の担当をグループで決める。	・三つのパートに分かれて演奏をすることを伝え、「ミ」と「ソ」が二つ必要になることを気付かせる。 ＊ミュージックベルの音の表を掲示して、自分の担当する音を把握しやすくする。
○三つのパートを重ねて演奏する。 ・いろいろな音が聴こえて難しかった。 ・二つのパートを合わせる練習をすれば、音が聴きやすくなると思う。 ・聴いていると、和音の響きがわかりました。 ・三つの音を合わせるときれいに響くと思う。	・三パートのリズムが同じであることに気付かせ、音を重ねる意識をもたせる。 ・補助の伴奏を入れることで、リズムを合わせやすくする。 ・３音を重ねることが難しいようであれば、練習方法を考えさせ、何度か演奏する機会をもたせる。 ・自信をもって演奏できるように、前向きな評価を与えるようにする。 ◇ 研究との関わり ◆やり直しができる場の設定 【自ら課題に取り組む】 ◆既習内容を生かした学習活動の設定 【自ら課題に取り組む】 **◇和音の響きやその移り変わりを感じ取りながら、旋律や伴奏の音を聴いて表現する技能を身に付けて演奏している。（知識・技能 ― 発言・演奏聴取）**